

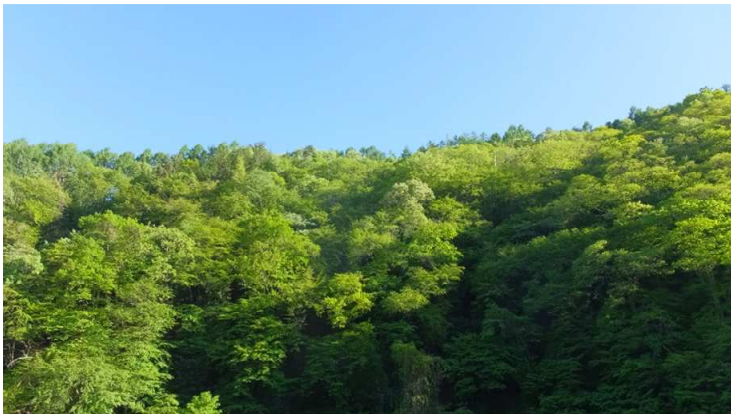


私たちの旅のゴールは「秘境の秘湯」です。メルヘン街道と名付けられた国道299号線から、折れて、蓼科山から流れる渋川沿いの細い道に入ります。その先に温泉旅館が一軒だけあります。そこから先は横谷峡遊歩道となります。ですからその温泉旅館は「秘境の秘湯」となるでしょう。

道は細く、両側にそそり立つ渓谷は緑一色に輝いていました。溪流の音が涼し気に響いてい

ます。ところが、駐車場は満杯で、賑やかな人声が聞こえてきました。「随分、賑やかな秘湯なこと！」と言いながら、立派な5階建ての横谷温泉旅館に到着しました。

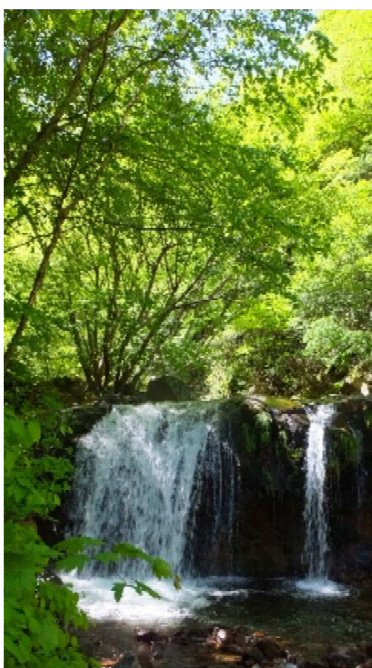
エスカレーターで2階のフロントに向かうと、宿は落ち着いた、自然を取り入れた和の雰囲気です。天井の高い広いロビーには蔓の立派なソファがありました。ピアノが置いてあります。茶室もあります。中国語が聞こえています。標高1400m くらいの山の中の温泉ですから、やはりここはみんなが来てみたい温泉なのだ、と感じました。しかも今回は優待料金で半額ということで、有難いことです。



広い和室の部屋は畳が青い！バルコニー側が全面窓になっていて、窓の外は緑だけです。その緑が反射して、部屋を緑にしています。すると突然、バサバサ、ヒュウッーと飛び交うものが目に入りました。燕でした。飛ぶ姿は捉えられません。



夏になったのだと実感しました。ここは見上げなければ空が見えないほど、深い渓谷の宿でした。湯は鉄分が多いとのことで茶色に見えましたが、旅館では黄金色とうたい、金運アップとか…大きい岩で囲まれた露天風呂を楽しみました。



友人との旅はなんといっても会話の楽しさでしょう。共通の友人、教会などの近況も話し、話題は尽きません。私たちは後期高齢者でしたから、健康、病気など、心配事も増えてきます。今回は山爺夫妻も夫も、病気を乗り越えての再会でしたから、喜びもひとしおでした。また、特に、天女様の信仰、活動の原点を知ることができました。彼女は牧師であられた父上の任地、朝鮮の大邱で生まれ、引き揚げて来られたこと、学生時代を広島で過ごしたこと、また、夫君の任地は在日韓国人の多い下関であったことなどから、韓国との繋がりが大きかったと言われます。「韓国での出生、その後の教会での韓国との繋がりに、まさに私の人生には一本の川の流れるようにその縁は流れているのです」と教会の会報に記しておられます。そして、韓国との交流に、1967年の「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」があったことが大きな和解の力になったと言われます。彼女の幼い時からの思いの深さに、また、それが今の信仰生活を後押ししていることの大きさに感動しました。美しい笑顔は彼女のひたむきな純真な生き方から生まれたのだと思いました。